

子ども達の夢と想いを載せたLNGローリー車

当社および北海道LNG株式会社は、2050年カーボンニュートラル時代の主役となる子ども達が自分たちの将来の夢を思い描き、そしてエネルギーや環境に関する学びのきっかけにしてもらうために、2022年度より、LNGローリー車^(※)に掲載するイラストを募集しています。

今年度も北海道内の小学生を対象として、「2050年の自分や一緒にいたい大切な仲間」をテーマに募集を行いました。計1,393作品の応募をいただき、そのうちの秀作120作品をLNGローリー車2台に描きました。今後、道南・道東方面を中心に走行する予定です。

(※)LNGローリー車：液化天然ガス(LNG)を輸送するタンクローリー



10/28表彰式・お披露目会の様子



完成した2台のLNGローリー車

一戸建て住宅への「エコジョーズ」累計設置件数5万件達成

当社は2005年の販売開始以降、省エネ型ガスセントラル給湯暖房機「エコジョーズ」の積極的な普及拡大に努めています。このたび、累計設置件数(当社供給区域内、一戸建て住宅)5万件を達成いたしました。これにより、従来のガスセントラルシステムと比較し、累計約15.7万tのCO₂削減に寄与しています。

今後も、「エコジョーズ」の普及拡大を図り、省エネ・CO₂削減をすすめてまいります。



5万件達成を記念したセレモニー

株主さま施設見学会

株主の皆さまに当社グループの事業運営についてご理解を深めていただくため、4年ぶりに施設見学会を再開しました。

今年度は9月に当社施設(札幌東ビル技術開発・研修センター、石狩LNG基地、新さっぽろエネルギーセンター)で実施し、たくさんの株主さまにご参加いただきました。



北ガス硬式野球部 REPORT

都市対抗野球大会に3年連続出場!

2023年7月14日(金)から東京ドームで開催された第94回都市対抗野球本大会に、3年連続3回目の出場を果たしました。7月19日(水)の1回戦は東海地区代表の王子(春日井市)と対戦し、残念ながら0-9で初戦敗退となりましたが、この一戦に取引先の方や従業員等、約3,000名が応援に駆けつけました。



株主の皆さまへ

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

北海道ガス株式会社

証券コード: 9534

株主の皆さまには、日頃より当社グループの事業運営に格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

「エネルギーと環境の最適化による快適な社会の創造」に向けた、北ガスグループ経営計画「Challenge2030」は、フェーズ1(2022~2024年)の2年目を迎えました。本年10月には、情報プラットフォームやデジタル技術活用の核となる情報共通基盤「Xzilla(くじら)」をリリースいたしました。デジタル技術を最大限活用し、業務改革を遂行することで、省エネの定量化と価値化を図り、量の拡大に依存しない価値創造型の事業基盤を構築していきます。

人口減少や少子高齢化による社会構造の変化など事業環境が大きく変化する中、引き続き、「安全・安心・安定供給」を第一に、地域とともに成長する企業グループを目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 川村 智郷

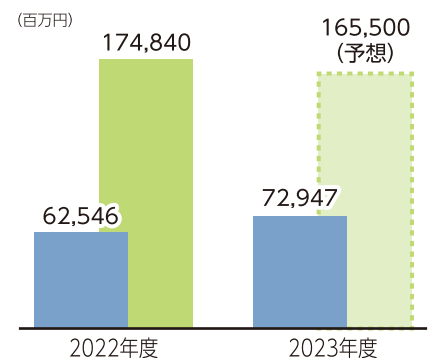
連結決算ハイライト

■ 上半期 ■ 通期

● 売上高

72,947 百万円

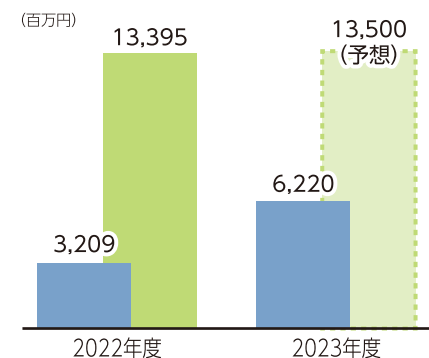
前年同期比 16.6%増



● 経常利益

6,220 百万円

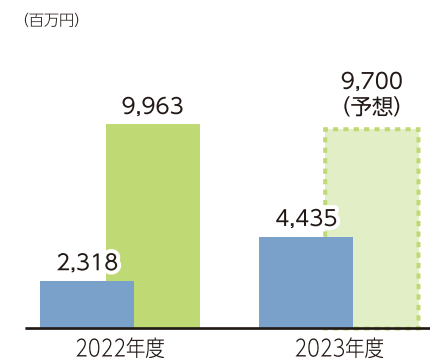
前年同期比 93.8%増



● 親会社株主に帰属する純利益

4,435 百万円

前年同期比 91.4%増



上半期業績のポイント

連結決算は2期連続の増収、3期連続の増益で、売上高・経常利益は過去最高となりました。

【売上高】 ガス売上高の増加に加え、電力事業の家庭用の販売量増加や燃料費調整制度における販売単価の上昇等により、前年同期に比べ16.6%の増収となりました。

【経常利益】 都市ガス販売量の増加等に加え、原料調達の取り組み成果や業務改革の推進等により、前年同期に比べ93.8%の増益となりました。

上半期決算詳細、トピックス等

<https://www.hokkaido-gas.co.jp/ir/info/>

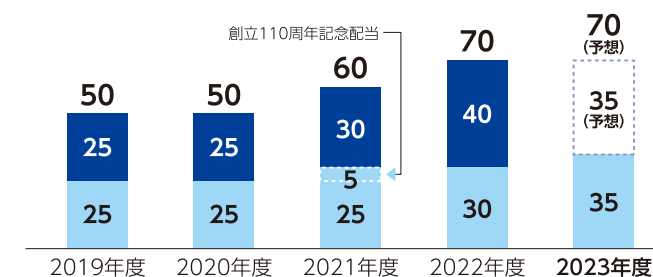


中間配当について

中間配当につきましては、10月31日開催の取締役会において、1株につき35円とすることを決定しました。

また、期末配当予想を35円としており、年間配当金は1株につき70円となる見込みです。

配当金(円) ■ 中間 ■ 期末



「エネルギーと環境の最適化による 快適な社会の創造」に向けて

当社グループは、2050年以降のカーボンニュートラル時代を展望しつつ、2030年を中間点とする北ガスグループ経営計画「Challenge 2030」の達成に向けて、右の3点を2030年までの取り組みの柱として位置付けています。

その中で、「デジタル技術の活用による事業構造変革」を実現する施策として、本年10月より本格稼働した情報共通基盤「Xzilla(くじら)」をご紹介します。

「Challenge 2030」 主要施策 2050年を見据えた 2030年までの取り組み

I. 総合エネルギーサービス事業の進化による分散型社会の形成
「天然ガス+省エネ+再エネ」とエネルギーマネジメントシステム(EMS)により分散型社会を形成

II. カーボンニュートラルへの挑戦
さまざまな戦略に果敢に取り組み、道内の低・脱炭素の取り組みを牽引

III. デジタル技術の活用による事業構造変革
総合エネルギーサービス事業の進化を支える強固な事業基盤を構築

北ガスグループ経営計画 Challenge 2030

<https://www.hokkaido-gas.co.jp/ir/company/philosophy/management-plan/index.html>



情報共通基盤「Xzilla(くじら)」本格稼働

当社グループの情報プラットフォームの核となるシステムとして、情報共通基盤「Xzilla(くじら)」を本年10月にリリースいたしました。「Xzilla」の活用によりデータに基づく意思決定・業務変革を実現するとともに、お客さまや地域の発展に寄与してまいります。

デジタル技術の活用による事業構造改革

社内外の様々な情報をデジタル技術の活用により高度に連携させ、業務プロセスの抜本的改革を図り、お客さまに提供する価値向上を実現します。



業務プロセスの変革

- 自動化・遠隔化等による業務の高質化・効率化
- 意思決定の迅速化・明確化

お客さまとの関係強化

- 最適なエネルギーマネジメントによる機能的な省エネ
- お客さまとの双方向コミュニケーションの確立
- パーソナライズされたサービスの提供

「Xzilla(くじら)」への思い

強大な(Zilla)プラットフォームを活用した変革(X)の実現、という思いをこめて命名いたしました。事業の核となるシステムとして北ガスグループのヒト・モノ・データをすべて積み込み、未来という大海を乗り越え、挑戦し続けてまいります。

社会価値の創造と“持続的な社会”の実現

「Xzilla」に集約したお客さま情報や地域の情報をつなぎ、活用することで、総合エネルギーサービスを進化させ、エネルギーを中心とするデジタルプラットフォームビジネスを、北海道をベースに広く展開していきます。

また、地域との連携を一層強化・拡大しながら、地域社会の課題解決に役立て、持続的な社会の実現に貢献してまいります。

